

『 どんぐり落ちたよ 』 1歳児 11月

エピソード

どんぐりを机やトイから転がして遊んでいる A ちゃん。大きいどんぐりを手に握りしめ、きよろきよろと園庭を見渡し、歩き始めた先にはケースがありました。ケースを上から覗き込んだと思ったら、握りしめていたどんぐりをポトンと落としました。ケースにコツンと当たりながら落ちていくどんぐりを見て、ニヤッと笑みを浮かべて「落ちた」とつぶやいていました。その後、何度も何度も繰り返しどんぐりを拾っては落としていました。

自然物を見たり触れたりすることで、形や固さなどに興味をもっています。



穴あいてるな
どんぐり入るかな？

やってみようとしている姿が遊びの中で多く見られます。こうしたらどうなるだろうなど試そうとする気持ちに繋がっています。

こっちにも入れようっ

やった～
もう一回

落ちたよ



なんか聞こえたぞ

音が聞こえたことに気づき、意識を向けています。集中力にも繋がります。

面白いと感じたことを何度も試しています。この笑顔は、自分で面白いことを見つけて楽しいと感じた気持ちの表れです。

なににな

保育者の思い

どんぐりを転がして遊ぶことが楽しいと思う子どももいれば、いっぱい集めて嬉しい気持ちになる子、どんぐりをいろいろなものの中に入れてみようとする子など、子ども達の思いは様々です。そんな子ども達のやってみようとする思いを大事にしています。

家庭だったら…

子ども達は、戸外に出かけると、ふと立ち止まりいろんなものを手に取って触ってみようとしていませんか？「何を見つけたの？」と声をかけてみてください。嬉しそうに見せてくれると思いますよ。

※ …子どもの姿から見えてくる学びや育ち